

開催月日 : 2024年 3月 25日

2023年度第2回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス連携推進会議

時 間	am / pm 10:00		am / pm 11:00	場 所	かんだ連雀2F
議 長	尾崎 正紀			書 記	渡嘉敷 和也
出席者	○千代田区高齢介護課介護事業指定係:●●●●●様 ○千代田区社会福祉協議会:●●●●●様 ○千代田区高齢者あんしんセンター:川島典子(神田地区) ○医療機関:●●●●●様(三楽病院) ○医療機関:●●●●●様(杏雲堂病院) ○医療機関:●●●●●様(九段訪問看護ステーション(連携)) ○医療機関:●●●●●様(アクア訪問看護ステーション(連携)) ○医療機関:●●●●●様(ナースステーション東京 文京支店(連携)) ○地域住民の代表者:●●●●●様 ○知見を有する者:●●●●●様(向陽ケアマネジメントセンター) ○知見を有する物:山田真理様(神田居宅) ○指定事業者 かんだ連雀いつでもサポートサービス:中村小夜子、尾崎正紀、渡嘉敷和也				
議 題					
確認事項	議長				
	出席者				
会 議 内 容	①開会の挨拶 かんだ連雀:中村小夜子				
	②取り組み事例発表 かんだ連雀いつでもサポートサービス:尾崎正紀、渡嘉敷和也				
	③ご出席者皆様よりご意見・講評				
	④閉会の挨拶 かんだ連雀:中村小夜子				
保留事項					

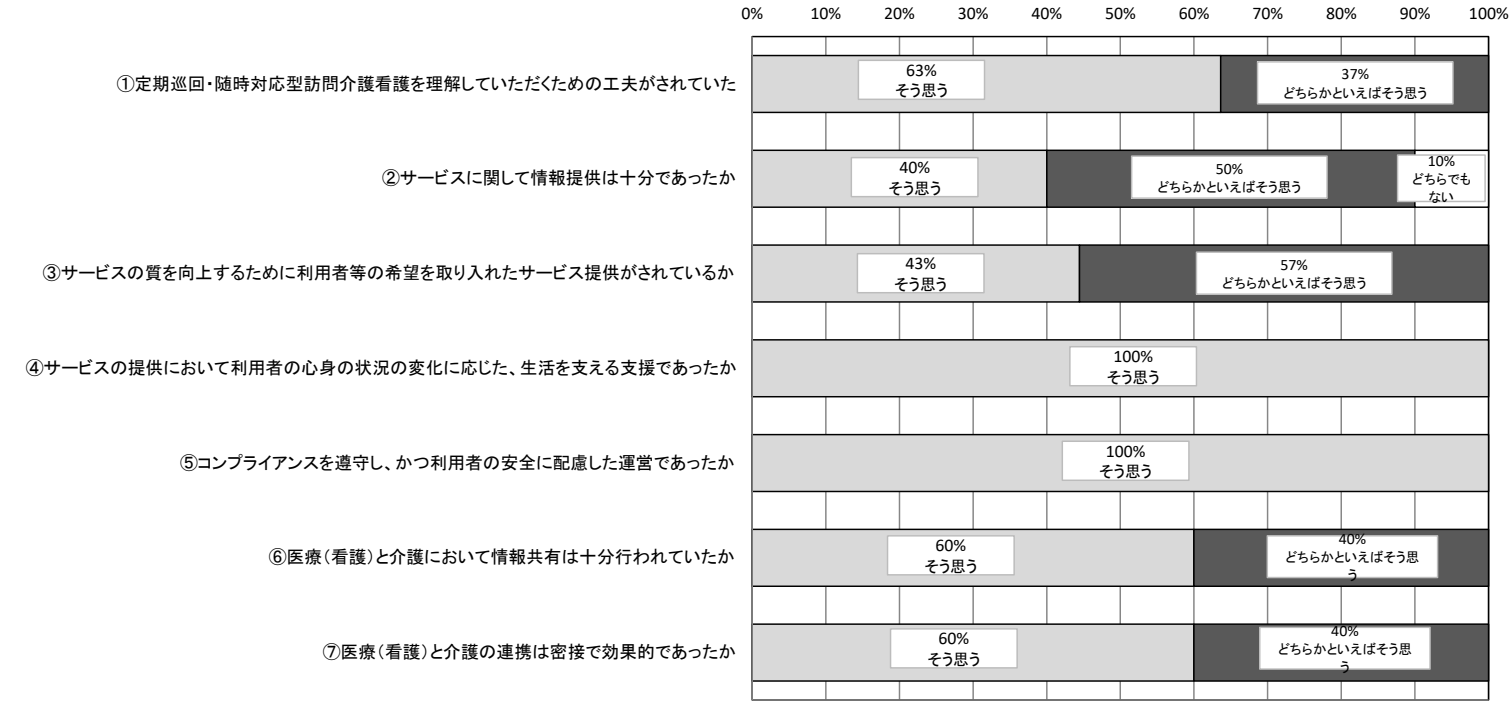
詳 細
①開会の挨拶
かんだ連雀：中村小夜子
②取り組み事例発表
利用者様のサービスを簡単に紐解き、尾崎と渡嘉敷で発表。
まず地域住民の代表者、千代田区社会福祉協議会の方から意見をいただく。
その後、ナースステーション東京文京支店様から意見をいただく。
援助に関わった訪問看護様のアクア訪問看護からご意見をいただく。
●地域住民の代表者
○「なでしこ」と言うお弁当を配達してくれるところがありますが、直接届けるので、その時に色々と確認(困っている事はないのか等)していただける。
現在、この地域の方々も高齢になって各町会で支えあっています。
ゴミ出しのふれあい収集は中まで職員さんが入ってきてくれるから助かる。
(かんだ連雀：尾崎)
○ゴミ出しは近所の方が手伝っていたが、ヘルパーの方が手伝おうとすると「出してもらうからいいわ。」とゴミが溜まってしまっていました。近所の方はお手伝いしていただいているが、以前は週2回あったゴミ出しも忘れずにかかさず出していたが、大変になってきてしまい徐々にゴミ出しの頻度が減っていきました。それではゴミが溜まってきてしまうため、区のサービスである「ふれあい収集」を開始しました。しかし、ゴミ出しする場所が変わってしまったので、ご本人・近所の方も混乱は見られましたが現在は落ち着いています。
●千代田区社会福祉協議会
○昔ながらの地域の助け合いがあったが、徐々に難しくなり、そこに定期巡回が入って、地域の方々の負担が少し軽減されました。認知症の方の定期巡回があり、服薬管理が難しい方がおりますが、定期的に入ってくることにより服薬ができ、在宅生活を続けられています。

●ナースステーション東京文京支店 ○3点確認があります。1点目はスライド1枚目の「地域の方の訪問回数が減った」と言うのはなぜなのかと思っていたが、話を聞いていたら「(地域の方々が)高齢になってきている。」とのことで訪問回数が減ったと理解しました。2点目が2枚目のスレッドの「自費サービスの成果」についてなのですが、サービスを拒否していたが、関わる内容を絞っていったと言う事で、本人の抵抗感がなくなったのか経済的からなのか。最後3点目が5枚目のスライドにご家族の絵があるが、ご家族はどの程度関りをしていたのか、ヘルパーが入る事によりご本人はどの様に変化していったのか。
(かんだ連雀:尾崎) ○まずご家族の関わり方になりますが、ご家族は遠方にいらっしゃいます。ご本人はずっと独身で過ごされており、元々は兄妹と一緒に住んでいたが、兄が亡くなり弟の奥様が一番近いご家族と言うことで、遠方でありましたが、たまに足を運んでおりました。 自費サービスに関しては、ご家族から「見守り的に何かできませんか?」と依頼がありました。 介護保険でのサービスでとのお話もありましたが、サービス当初は元気であったため、訪問しても不在であったりと、時間を変更して随時で対応していたこともあり、まずは介護保険のサービスではなく、サービスの内容に縛られない自費サービスで対応をスタートしました。援助内容に関しましても、我々ができていることは何か、何を必要とされているか等、手探りでサービスを始めてたので縛りのない自費サービスで援助をスタートできたことは、導入としては良かったと思います。
●アクア訪問看護ステーション ○介入時、自宅内は尿臭がして、座布団がありそこからも尿臭がしており、直に座るもの躊躇ってしまう感じで、どうしたものか困りました。ご本人もサービスを受け入れてただけない方でしたので、ヘルパーさんも試行錯誤して、少しずつ洗濯や掃除ができるようになり、徐々に尿臭が改善していきました。 看護も方も尿取りパットの提案をしましたが、中々受け入れが難しい方でした。義理の妹様も自宅内を少しづつ片付けていましたが、ご本人から「あれも捨てられた。これも捨てられた。」と義理の妹様への不満を話される事はありませんでしたが、ヘルパーさんへの不満は出なかったのが上手に関わってくださっていたんだなと思いました。血圧の件にしては、通院先の医師と中々上手くいかず、薬のコントロールが難しかったので、タイミングの良いところで訪問診療に入っていただいて、薬のコントロールできるようになりました。

(かんだ連雀:尾崎)
○自費サービスから定期巡回に移行して、一番の成果は「薬がしっかりと飲めようになった。」と
いうところです。本人も「自分で出来ます。」という気持ち強い方だったということもあり、
初めは薬カレンダーを設置して1週間分の薬をセットして服用していただく形をとっていましたが、薬が
残っていても「もう飲んだわよ。」とご本人発信は飲んだ形になっていました。それでは薬カレンダーの
意味がないため、薬カレンダーは廃止して、ヘルパーの方が手渡しで服用していただく対応に変更に
なりました。しかし、薬の袋を見せると服用をしていないのに「飲んだわよ。」と衣類のポケットに入れてしまう
ことが多かったこともあり、ヘルパーの方で薬の袋の口を開け、目の前で手渡しで目視した状態でないと
しっかりと服用できない状態でした。しっかりと服用していましたが、血圧の数字がうまく下がりませんでした。
薬がしっかりと服用できるようになった先が中々進展がなく難しく感じておりました。訪問診療に切り替わり、
Drからの指示が細やかに出されていたので、今現在は血圧も安定し元気に過ごされております。
これは定期巡回だけではなく、ほかのサービスの協力があってこそ出た結果であると思っております。
●ナースステーション東京文京支店
○何がきっかけでデイサービスに行くようになったのでしょうか？
資料を拝見すると、あまり外に出るのが方ではなく、何か用事がないと外に出ないような感じであるのかな
と思いました。
(かんだ連雀:尾崎)
○元々デイサービスはお試しで行っていただいていたのですが、1回で「ダメ。」となっていました。
弁天湯(銭湯付きのデイサービス)にお誘いしたところ、ご本人は元々ずっと銭湯に通われてる方で
あったため、「銭湯」と言うところが気に入通わるようになりました。ケアマネジャーとの
関わり方ですが、司法書士の方が月1回訪問する時に、お小遣いをご本人へお渡しするのですが、
ご家族も立ち会っていました。その際にケアマネジャーも一同席していました。必要時はヘルパーも
同席しておりました。ケアマネジャーはこの方の援助に関して寄り添っていただいております。
④閉会の挨拶
かんだ連雀:中村小夜子
○本日の事例を通して、定期巡回のことについて管理者として考えていることは、地域の方にも理解して
いただいて、知ってもらおうと言うことはすごく難しいことであり、でも我々が進めていかなければいけないこと

であると思います。神田地域の方は、地域の繋がりが強く、その強みを十分に生かしながら、お邪魔して行って、裏手でお手伝いさせていただくようにまわっていただければと考えています。訪問から定期巡回に移りましたとお話しさせていただいたと思うのですが、ケアマネージャーは「この方は訪問介護ですと行きたいけど、定期巡回の切り替えるのタイミングは何なんだろうか。」とかなり悩まれると思います。かんだ連雀では、訪問介護と定期巡回を行っておりますので、訪問介護を利用されている方でもヘルパーが関わっていく中で課題が見えてきて、その中で課題を解決するため、長らく自宅で生活していくために定期巡回がいいのではないかと提案するポイントを分かり易く皆様にお伝えすることが、我々が行っていることを知っていただき、連携する時のやりやすさに繋がっていくのではないかと考えております。このことに関しては我々の課題でもありますので、内部で話し合いを行いながら、訪問看護さんがなくしてはやっていけない事業ですので皆様と連携をして進めていただければなと思っています。

2023年度 3月 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 かんだ連雀いつでもサポートサービス 事業評価結果



⑧ ご意見、ご要望など：
 ●利用者個々人の記録がきちんと取られている。その上で個別対応が取られているのが素晴らしい。症状・サポート内容などの記録が詳しい。具体的な利用者の事例紹介が参考になった。
 利用者として近年問題になっているサポート側へのハラスメントが気になる。そのような報告と対応があれば共有して頂きたいし、利用者家族としても心掛けるきっかけにしたい。
 ●年度ごとにどのくらい利用者数があったのか、その変化なども数値わかるといいのかなと思いました。最初の異変気付くという、とても大きな役割を果たされているのだと思いました。
 ●定期巡回サービスは最も利用者身近な存在になります。生活実態や利用者の変化を日々察知する中で理想とする生活像等、支援者の思いも個人個人で発生するかと思います。個人の思いをいかにチームで共有し統一化していくか、その過程(事例)を知りたいです。